

県内経済動向調査結果(平成20年12月分)

平成21年2月4日

産業経済政策課

概 況

県内経済は、国内外の需要減退が深刻化しており、製造業全体で急激に生産が落ち込んでおり、悪化している。

主な業種	状 況
製 造 業	<p>ほとんどの業種で生産・受注が急激に落ち込んでおり、悪化している</p> <p>生産額、受注額はそれぞれ前年同月比29.4%減、同31.0%減となった。3か月先の業況見通しDIは 72.9から 67.1となった。</p>
建 設 業	<p>業界全体で厳しい状況が続いている</p> <p>受注額、完工高はそれぞれ前年同月比55.4%減、同39.2%減となった。3か月先の業況見通しDIは 68.8から 75.0となった。</p>
小 売 業	<p>消費者の巣ごもり傾向強く、家電品や飲食料品を中心に底堅い</p> <p>売上高は前年同月比で2.9%増、3か月先の業況見通しDIは 61.5から 66.7となった。</p>
サービス業	<p>運輸業を中心に低調となっている</p> <p>売上高は前年同月比20.3%減、3か月先の業況見通しDIは 50.0から 37.5となった。</p>

製造業の動向

1 食料品

弱い動きが続く

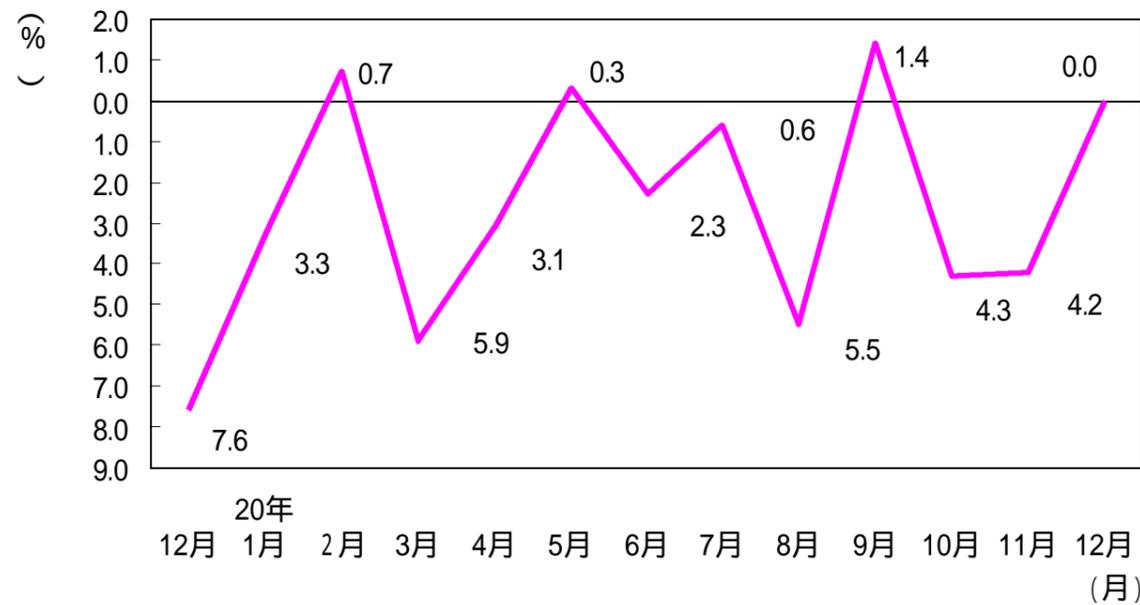
生産額は前年同月比0.0%増。3か月先の業況見通しDIは 57.1と変わらない。

昨年に比べ年末の休日が多かったにもかかわらず、嗜好品である酒類では、消費者の節約志向や日本酒離れにより、前年比5.2%減と振るわなかった。

一方、加工食品や調味料関連では、季節的要因により鍋物商品などで好調を維持しており、先月以上に需要が増している。酒類を除いた食料品全体では、前年比6.9%増となり10、11月からの持ち直しが見られる。旅館・ホテル業での落ち込み具合からも、年末年始に外出を控えて、自宅で過ごす消費者が増えている傾向にある。

この間、ペットボトルなどの石油製品や段ボールといった資材で高止まりが続いており、企業の収益を悪化させている。

食料品生産額前年同月比



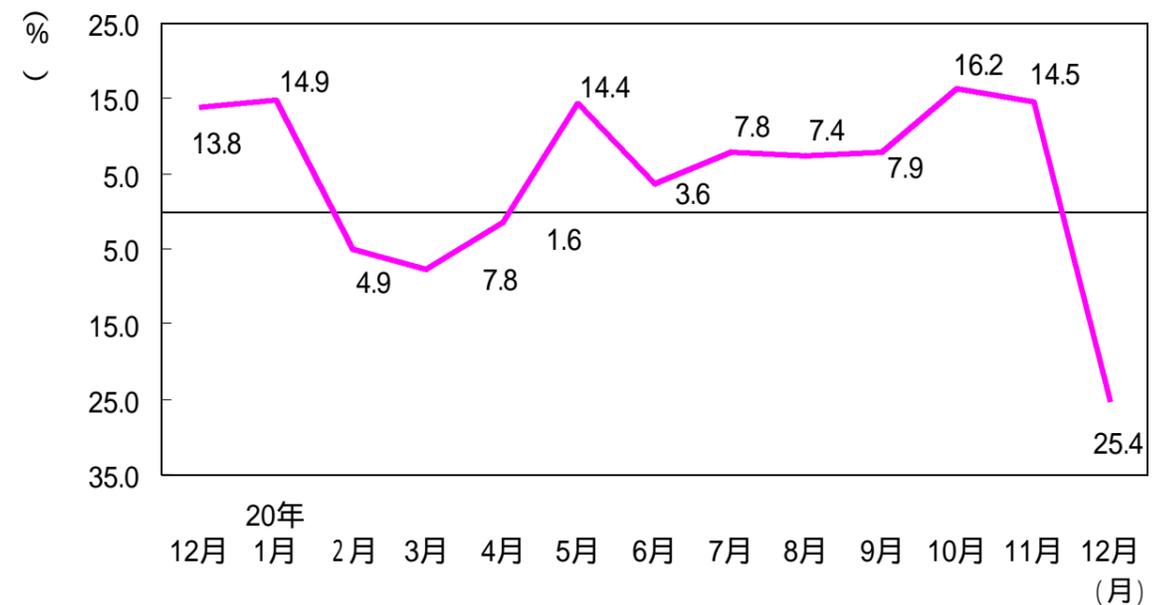
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比25.4%減、同24.8%減。3か月先の業況見通しDIは 57.1から 71.4となった。

百貨店などの衣料品販売不振の深刻化に伴い、各社で受注量が減少している。生産調整が行われるなど、業界全体としては低調となっている。品目別に見ると、例年に比べ暖かい日が多かったことや、消費者の節約志向もあり、ニット製品など婦人服での落ち込みが激しくなっている。

繊維・衣服生産額前年同月比



3 木材・木製品

16ヵ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比12.8%減、同8.8%減。3か月先の業況見通しDIは 50.0から 41.7となった。

県内住宅市況の改善が見られないほか、公共工事も少ないことから、総じて合板、集成材、一般製材ともに低調な生産活動が続いている。円高やロシアの関税引き上げにより、国産材と輸入材の競合が激しくなっているほか、重油、接着剤や梱包材などの資材が高止まりしており、企業の経営を苦しめている。

4 鉄鋼・金属製品

急速に生産が落ち込む

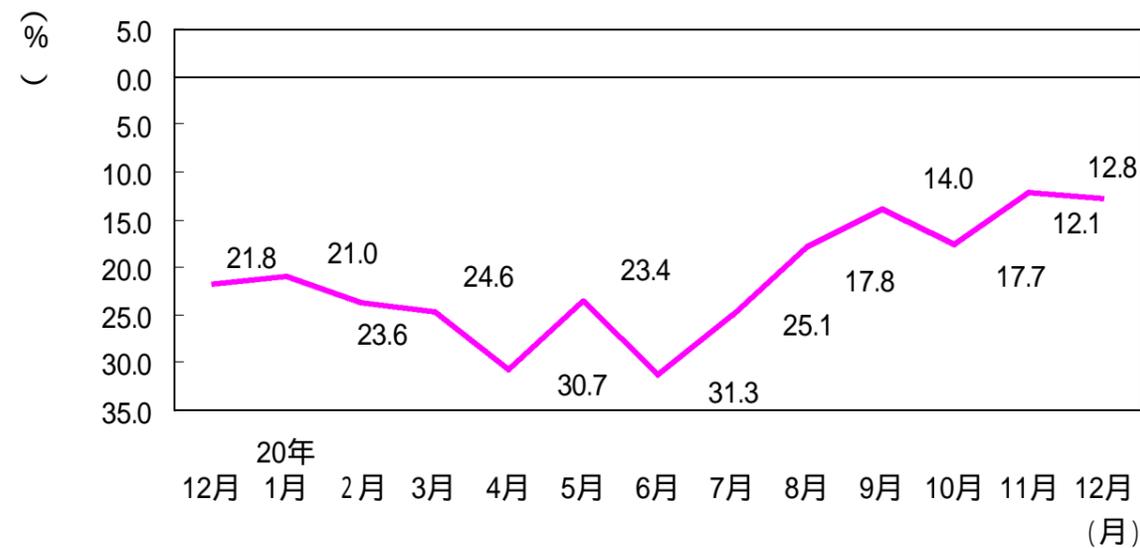
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比31.3%減、同19.7%減。3か月先の業況見通しDIは 90.9から 63.6となった。

建機関連において、先月に引き続き堅調となっている企業が一部にあるが、電気機械関連や公共工事関連では、元請け企業の生産調整を受け、落ち込みが激しくなっている。操業停止日に対応している企業があるほか、雇用調整を検討している企業も多く見受けられる。

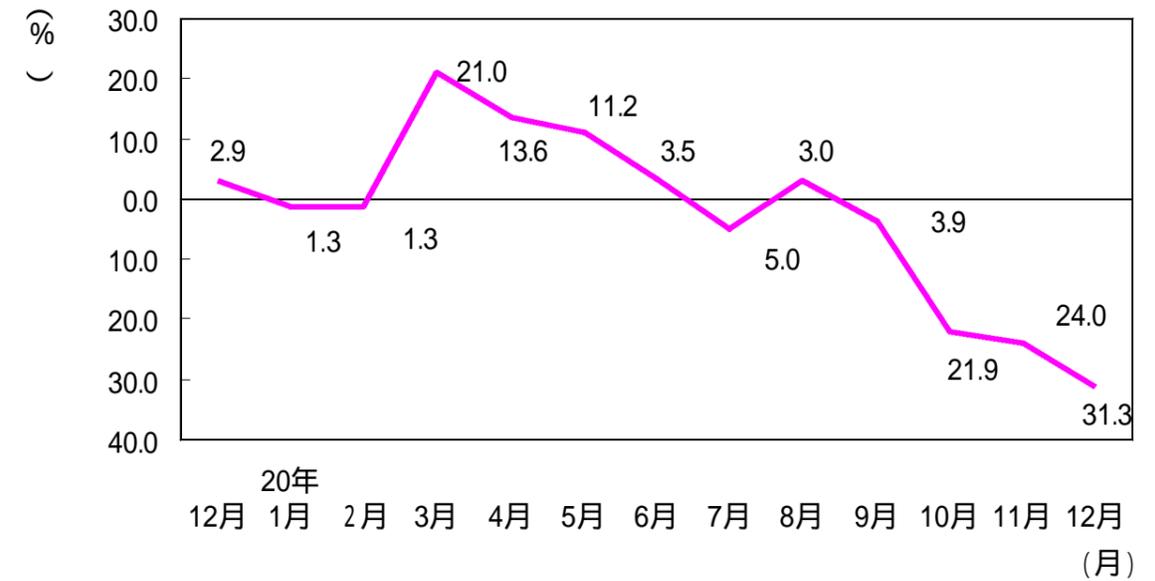
建具関係でも、市況の低迷に伴い生産が減少しているうえ、競争の激化により利幅が減少しており、厳しい状況となっている。

原材料の価格については、鉄スクラップなどで下落しているが、鋼材などでは下げ幅が小さく、企業の収益を圧迫している。

木材・木製品生産額前年同月比



鉄鋼・金属生産額前年同月比



5 一般機械

受注が大幅に減少し、弱い動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.2%増、同53.4%減。3か月先の業況見通しDIは 71.4から 85.7となった。

プラント設備関連では、堅調な生産活動を続け、数ヶ月先の受注残を抱えている企業も見受けられるが、一般産業機械では、発注のキャンセルや延期がいくつかあり、国内・海外市場の冷え込みが窺える。輸送機械関連では、自動車部品の工作機械などの落ち込みも激しくなっている。総じて見ると、一時的要因により生産額で前年並となっているものの、受注額で大幅に減少しており、弱い動きとなっている。この間、雇用調整を検討している企業もいくつか見受けられる。

6 電気機械

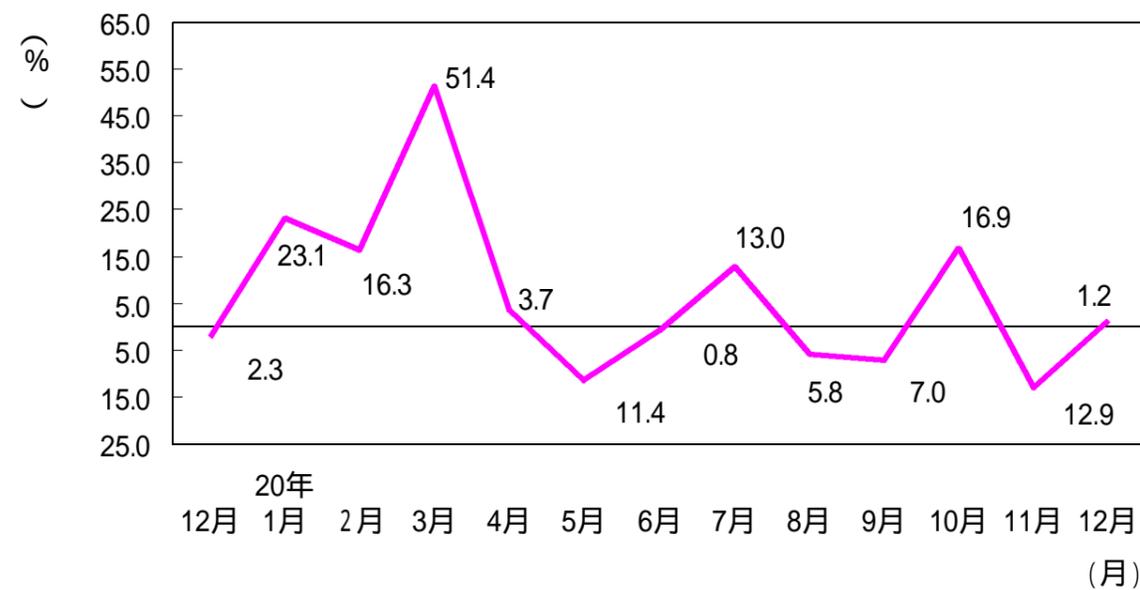
生産が先月以上に落ち込む

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比31.7%減、同32.0%減。3か月先の業況見通しDIは 90.0から 80.0となった。

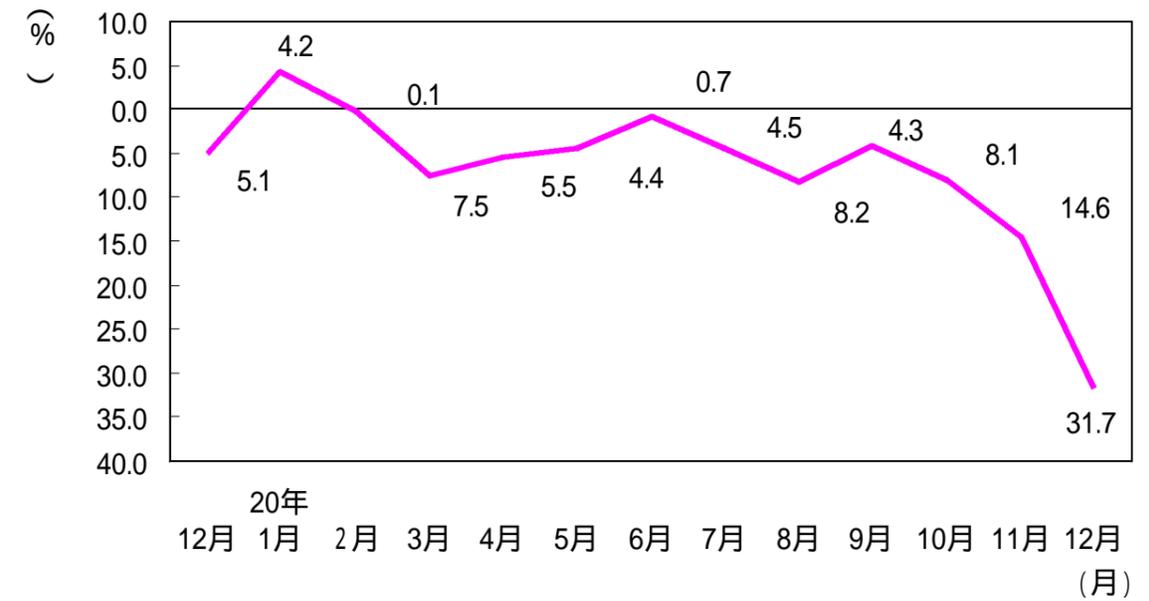
基板関連の一部や、光ファイバーなどの通信部品で堅調な生産活動が見受けられるものの、コンデンサーや半導体、電子部品での落ち込みが激しく、携帯電話向け部品も低調となっている。生産調整のため、作業時間短縮や作業停止日を設ける企業が多く、非正規社員の雇用調整も行われている。

総じて見ると、世界的な景気悪化の影響を受け、国内外の需要の減少は深刻化しており、先行きの不透明感が増している。

一般機械生産額前年同月比



電気機械生産額前年同月比



7 輸送機械

大幅な減産続き、先月以上に低迷している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比54.7%減、同52.2%減。3か月先の業況見通しDIは 50.0と変わらない。

国内向け・海外向けともに需要の減少は深刻化しており、内装品や精密部品などの品目にかかわらず、ほとんどの企業で在庫調整が進んでおり、5割以上の大幅な減産が続いている。この間、各企業で派遣社員や契約社員を中心に雇用調整が行われている。

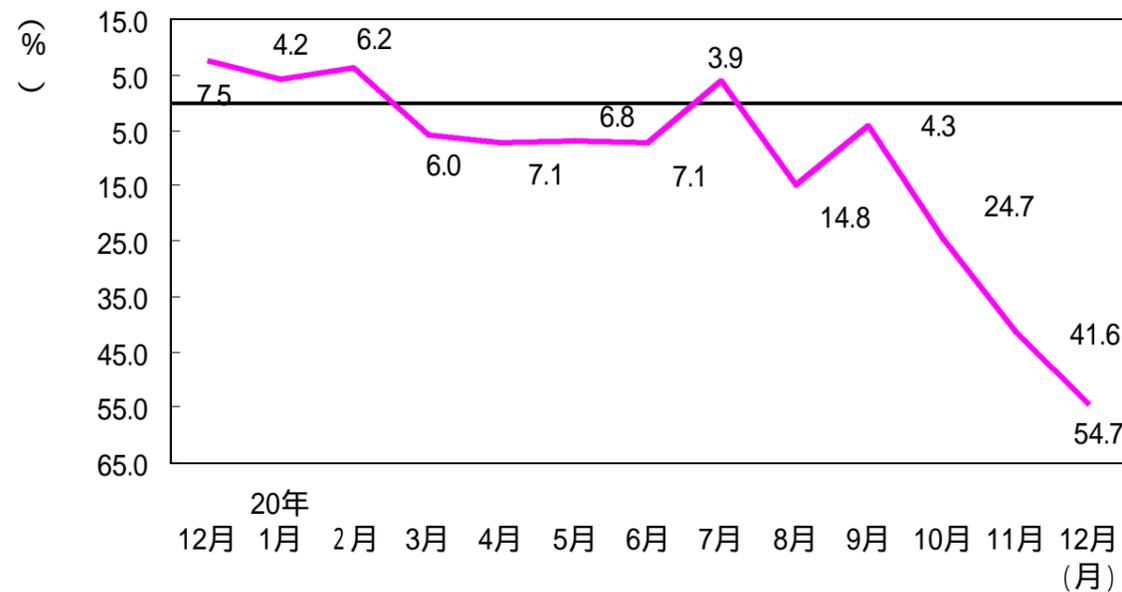
8 精密機械

急速に悪化している

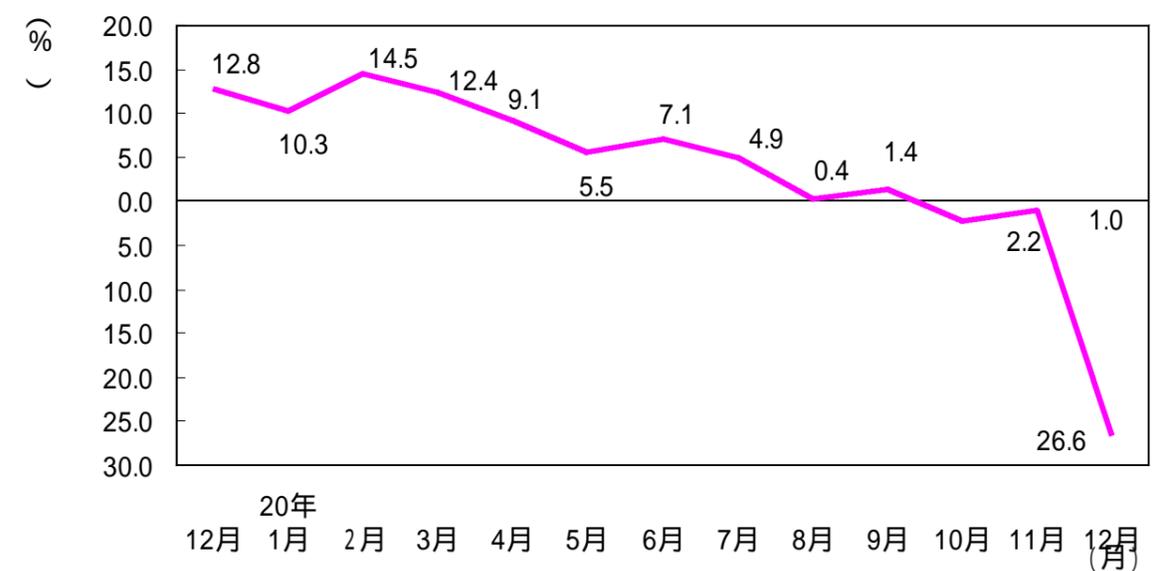
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比26.6%減、同20.9%減。3か月先の業況見通しDIは 100から 87.5となった。

先月まで好調を維持していた医療機器関連において、海外向け製品を中心に弱い生産活動となり始めている。デジタルカメラ関連や携帯電話部品、光ファイバー関連、計量関連などでも、国内外の景気悪化や円高の影響を受け、各社とも受注・生産ともに大幅に落ち込んでいる。雇用調整に踏み切っている企業や、役員報酬をカットしている企業も見受けられる。総じて見ると、先月まで前年並を維持してきたものの、景気悪化と円高を背景に、生産額・受注額で前年を大きく割り込んでおり、悪化している。今後の更なる減産も懸念される。

輸送機械生産額前年同月比



精密機械生産額前年同月比



建設業の動向

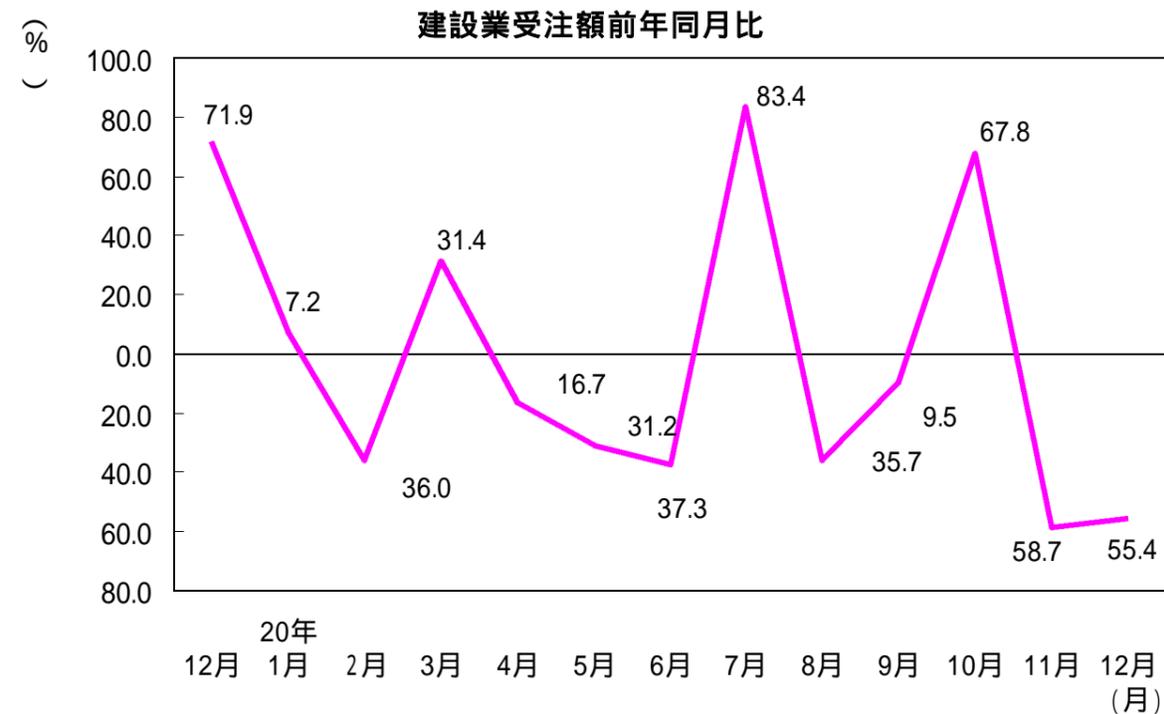
建設業

厳しい状況が続く

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比55.4%減、同39.2%減。3か月先の業況見通しDIは 68.8から 75.0となった。

民間工事では、県外から工事を受注している企業もあるが、季節要因による工事減少や国内景気の悪化が相まって、全体としては減少傾向にある。公共工事でも、一部で災害復旧工事や用水路修繕工事などが見られるものの、全体としては新規発注工事は少なく、過当競争による低価格入札の常態化が続いている。業界全体として厳しい状況が続いており、公共工事の前倒しに期待を寄せている企業が多い。

この間、鉄骨やコンクリートといった資材で高止まりが続いており、厳しい経営を強いられている。



小売業の動向

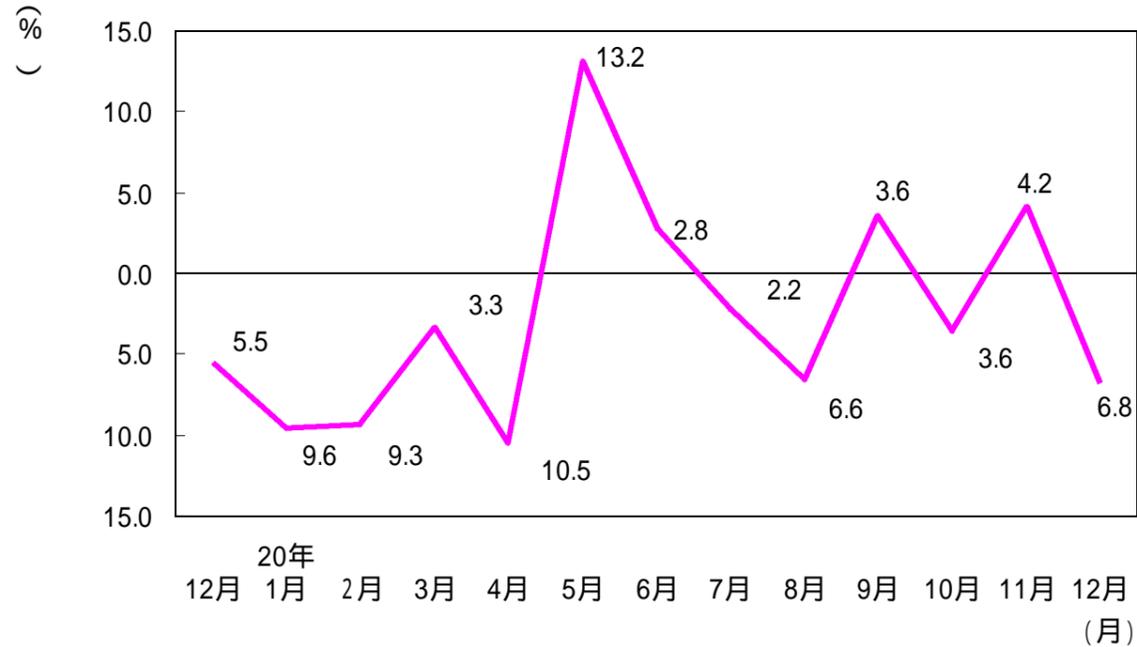
1 衣料品

低調な売上が続く

売上高は前年同月比6.8%減。3か月先の業況見通しDIは 80.0から 83.3となった。

コートなど冬物商品の売上が伸び悩んでいるほか、年末商戦も芳しくなく、低調となっている。客足・客単価ともに減少しており、消費者の購買意欲の低下が顕著に見られる。品目別に見ても、紳士服、婦人服、呉服のすべてで前年を割り込んでいる。

衣料品売上高前年同月比



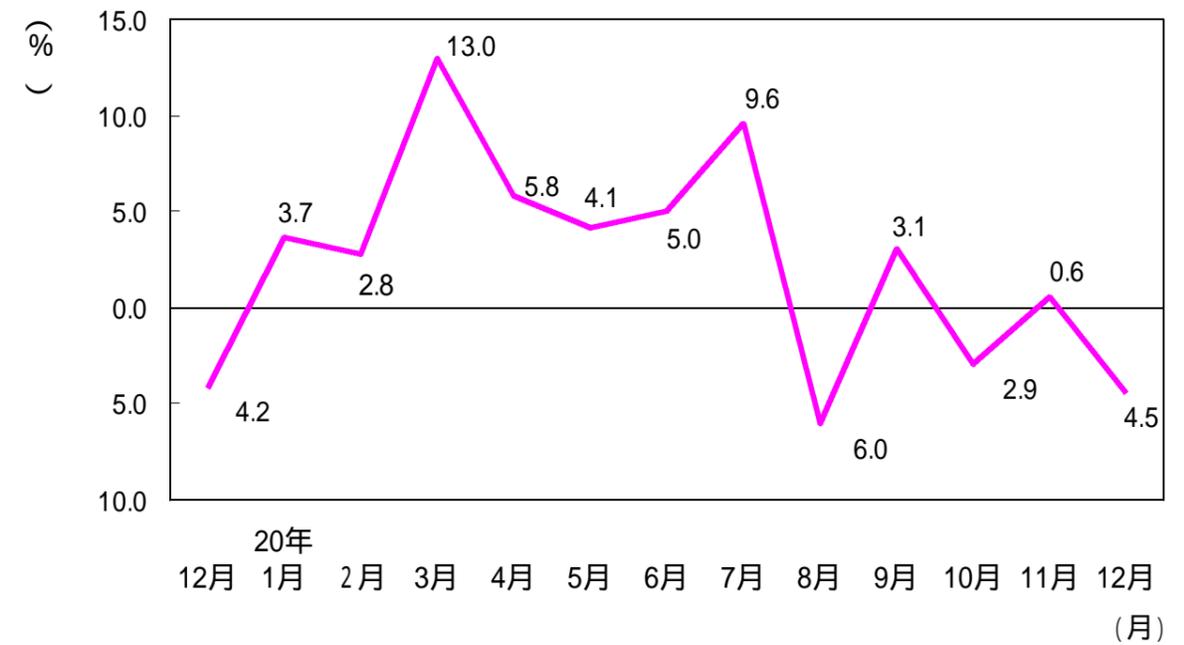
2 身回品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比4.5%減。3か月先の業況見通しDIは 66.7から 83.3となった。

降雪が少なかったことや日照時間が長かったことも影響し、暖房器具、除雪用品、雪囲い用品など季節物の売上が芳しくないほか、日用品も先月に引き続き低調に推移している。総じて見ても、衣料品同様に客足・客単価の消費者の購買意欲はさらに低下しており、売上の落ち込みが続いている。

身回品売上高前年同月比



3 飲食料品

底堅い売上が続く

売上高は前年同月比5.8%増。3か月先の業況見通しDIは 70.0から 60.0となった。

お歳暮商戦がほぼ例年並となっているほか、年末の連休が昨年より長かったことから客足が伸び、スーパーを中心に前年を上回っている。酒類などでは前年を8.2%下回り低調となっているが、飲食料品全体で見ると、内食傾向により底堅い売上が続いている。

この間、仕入れ価格高騰に歯止めがかからず、商品単価も上昇していることから、売上額を前年比増としていても企業の収益性は悪化している。

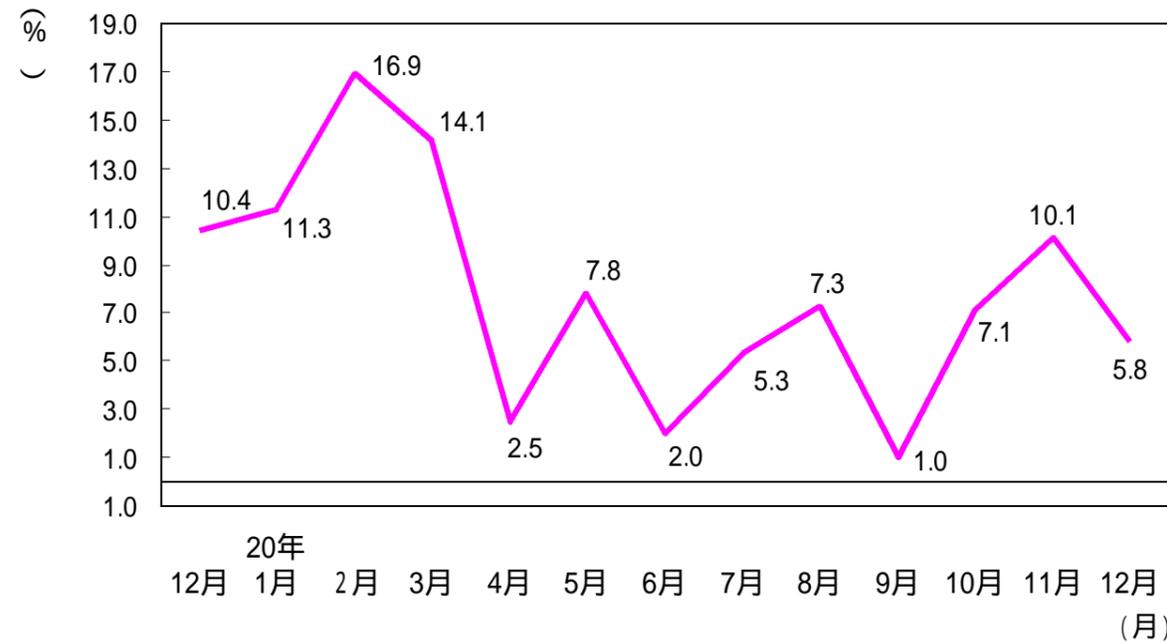
4 家電品

薄型テレビやDVDレコーダー(ブルーレイ含む)の好調が続き、底堅い

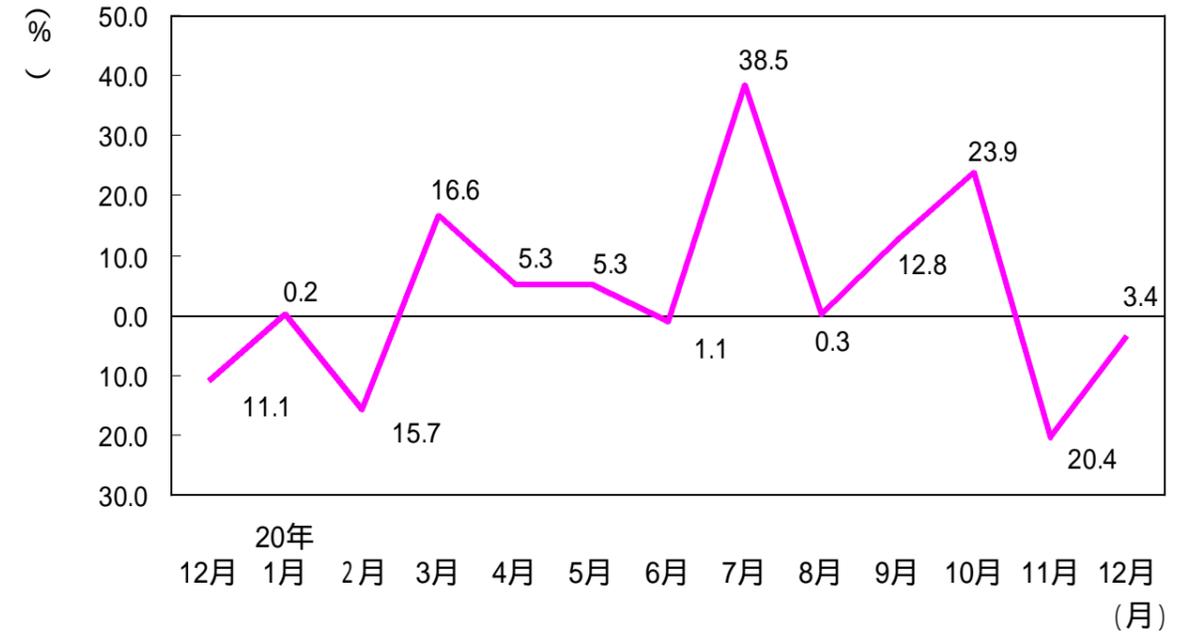
売上高は前年同月比3.4%減。3か月先の業況見通しDIは 20.0から 40.0となった。

例年に比べ降雪が少なく、先月に引き続き暖房機器をはじめとした冬物商品の動きが鈍いままとなっているほか、携帯電話やデジタルカメラでの売れ行きが芳しくなかった。しかし先月に引き続き、薄型テレビやDVDプレーヤー(ブルーレイ含む)など高額デジタル家電が好調に推移しているほか、5万円以下の小型パソコンも好調に販売台数を伸ばしている。総じて見ると、前年同月の反動により前年割れとなっているが、底堅い売り上げとなっている。

飲食料品売上高前年同月比



家電品売上高前年同月比



サービス業の動向

1 旅館・ホテル

厳しい状況が続く

売上高は前年同月比3.8%減。3か月先の業況見通しDIは 71.4から 57.1となった。

国内景気悪化の影響を受け、観光シーズンにもかかわらず日帰り温泉客や宿泊客が減少しているほか、客単価も減少している。さらに婚礼部門や宴会部門でも、件数が減少しているうえ、1件あたりの人数も減少していることから、総じて厳しい状況が続いている。

この間、ガスなどの価格は下がっているものの、食材価格は上昇しており各社の資金繰りは厳しい状況となっている。

2 その他サービス

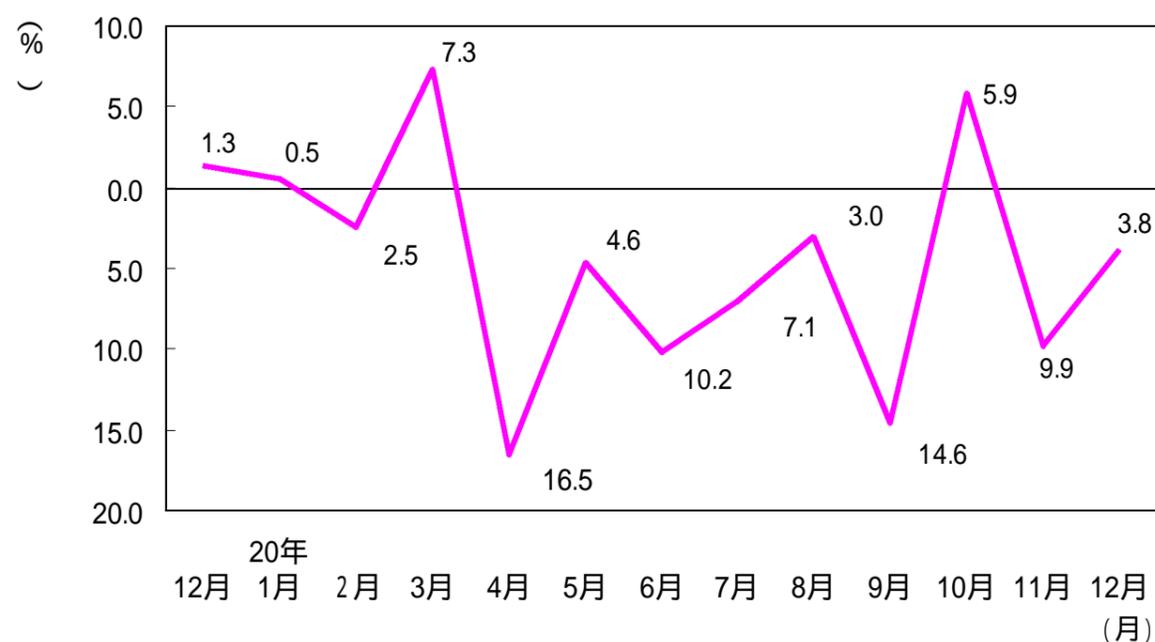
運輸業では低調に推移するも、道の駅で好調

売上高は前年同月比31.7%減。3か月先の業況見通しDIは 20.0から 10.0となった。

運輸業では、食品関係で貨物量が安定しているものの、自動車部品で急激に減少しているほか、比較的天候が良かったことからタクシー客も減少している。売上高は前年同月比12.7%減と、低調となっている。ソフトウェア関連でも、先月に引き続き低調となっている。

しかし道の駅では、天候が良かったことやガソリン価格の下落により、飲食良品や物産品などの売上が伸びており、前年比で大幅増となっている。保険では、弱含み基調となっている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



その他サービス売上高前年同月比

